

粘り強く仲間を増やし ダンプ労働者の為に奮闘

徳島ダンプ支部

結成25年活動の中心は 白ナンバー排除との闘い

徳島ダンプ支部は結成25周年を迎えました。

一九八七年四月に中央オルグ（当時建設一般）として1人（佐野氏）を雇い入れてダンプの組織づくりが始まりました。陸運支局の名簿を使い、見知らぬ家を1軒1軒、何度も何度もたずねて要求を聞き出しました。交通事故の相談など、少しずつでも実現し信頼を勝ち取っていく、その繰り返しでした。徳島市内に下宿して夜のオルグ活動に専念しました。翌年9月には、組合員50人に、次の年には一〇〇人を突破しました。二五〇人になった一九九七年に2人目の専従者（丸岡氏）を採用し、一九九九年の最高時には、三三〇人を突破し、個人持ちのダンプの2人に1人は組合員という状況を作りました。単価改善では、一九九〇年に徳島県と交渉し、あまりにも低い単価を改善するため「過積載を防止するため、ダンプの利益を不当に害さない」との土木部長通達を出させました。徹底のため県は指名業者三二四〇〇社に対して経営審査の中で、積算単価が支払わ

れるときには4割になつていく。ダンプに適切な単価を支払うように」指導しました。また、封筒の表に「徳島県土木部管理課との重要協議事項」とのスタンプを押した、単価改善の文章を建設業協会が二四〇〇社に配布しました。その結果、十数年来上がらなかった常用単価は2千円上が3万2千円になりました。

一九九三年、県警は、ダンプ運転手が運送業の許可を受けずに荷を運んでいたとして、運転手13人と建材業者を書類送検（署名捺印）しました。組合は徳島・高知の陸運支局と四国運輸局に対し不処分要請を行いました。そして警察及び検察庁へ「ダンプ持ち労働者」であること、ダンプの持ち込みという形式以外は、雇用労働者と同じであると主張し不起訴を訴えました。全

章に趣旨は同じと支局長名で署名捺印してもらいました。高知県では、一九九五年に県が出した指導事項（緑ナンバー優先使用文書）により、各土木事務所が口答で緑ナンバーを優先的に使うよう指導していました。一九九八年、土佐清水市の白ナンバー問題でそのことを知った組合は、土木部管理課と交渉、課長補佐は撤回文を出しました。



110人の組織建設を目標に掲げて頑張ります。（12月7日静岡市内）

要求闘争を強化しよう 組織拡大に活かそう

静岡ダンプ

静岡ダンプ支部は、12月7日（日）に第14回定期大会を静岡市静岡市内で開催しました。大会には代議員20人、来賓4人（愛知ダンプ支部・静岡県生公連・国交労組東海建設支部・国交労組静岡県協）の計24人が参加しました。

村松委員長の主催者あいさつのあと、来賓から激励と連帯のあいさつを受けた後に、高橋書記長が13年度の活動総括と新年度の活動方針についての提案をおこない、それにもとづく討論が活発におこなわれました。

討論では9人の仲間が議案を補強する立場で発言し、職場闘争や使用促進闘争の状況を

や強化の必要性について発言があり、会場内では参加者全員で討議を深めました。

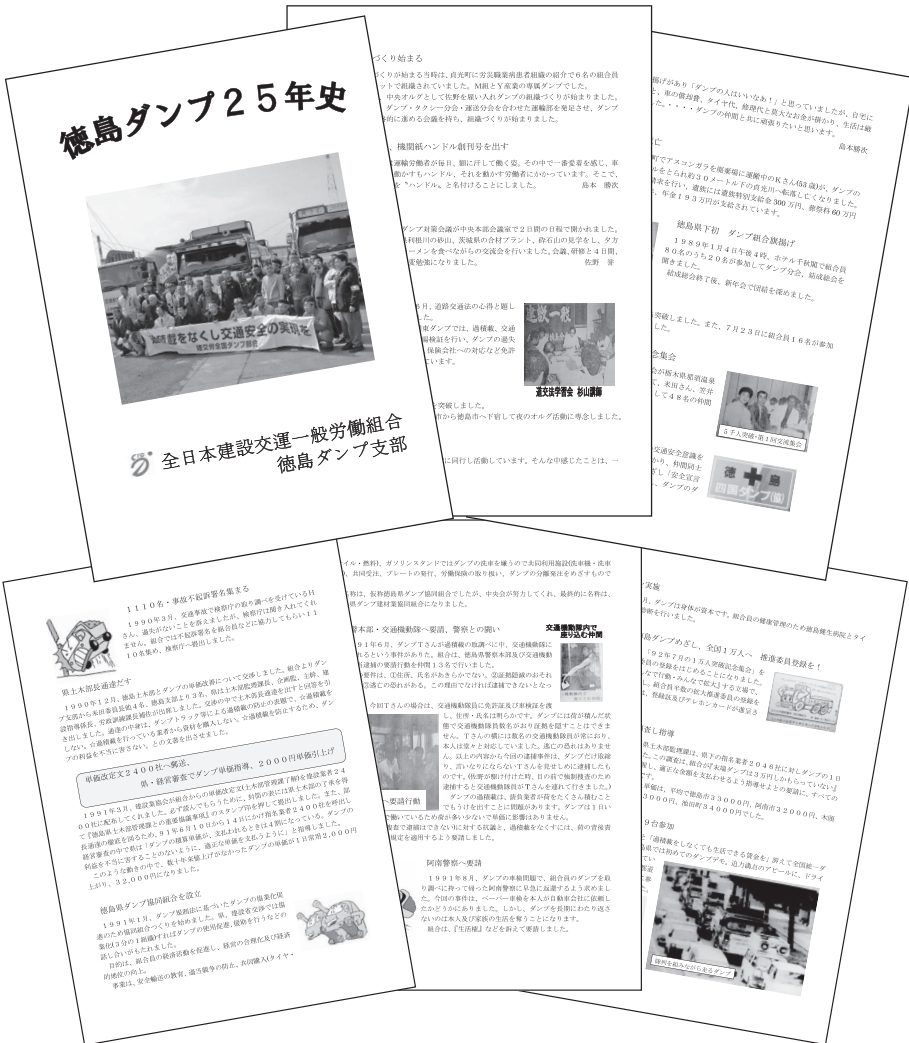
役員体制

執行委員長 村松 大司

副執行委員長 野川 正一

書記長 他4名

立顯



記念パンフレットを作成しました。内容は部会のHPに掲載しています。

国・徳島・香川・高知の各運輸支局と交渉し、①③の文

白ナンバー排除阻止の闘いは、25年の活動の中心でした。